

絵本と子どもと私

尾鷲市立図書館協議会委員 北川 志保

笑い・驚き・怒り・悲しみ・発見…絵本を通して、子どもたちと想いを共有できる日々、そして幸せなひと時。

子どもたちと一緒に爆笑しドキドキする絵本がある。『ダメよデイビッド!』『いやいやえん』『おいしいのぼうけん』。向こう見ずでやんちゃで無鉄砲な主人公が必ず登場する。子どもたちは「こんなことしたら怒られるよね」「いけない子だね」とつぶやきながらも、その破天荒な言動に憧れを抱いているかのようだ。主人公に自分を投影し、空想の世界を楽しんでいる子どもたちの目は輝いている。

子どもたちと一緒に“あくび”が出る絵本がある。『あくび』。欠伸はうつるとよく言われるが、絵本からでもうつることに驚いた。中川ひろたかさんの子どもも大人も引きつける面白おかしい話は大好きだ。シンプルな題材だが、動物愛護・人種問題・社会的弱者といった隠れたメッセージは奥深く、舌気に欠伸をしている場合ではないと我に返る。

子どもたちに読んでいると声がつまる絵本がある。『かわいそうなぞう』『ぼくのこえがきこえますか』『はせがわくんきらいや』。時代背景・社会問題を含んだストーリーや実話による問題提起は、5～6歳の子どもたちには少し難しい内容であろう。しかし、登場人物のやり場のない怒り、底知れぬ悲しみ、海よりも深い愛は、子どもたちの心に確実に届いており、一人ひとりの目は鋭く真剣になる。

この話でどうして涙が出るの?と同僚に笑われる童話がある。『ロボットカミイ』。段ボールで作られたロボットのカミイが、トラックにひかれそうになる幼稚園児を守ろうとして自分がひかれるシーンがある。病院に救急搬送されたカミイが病院から出る時には、木箱に入っていて動かない。死を意味する。絵本や童話は段ボールで作られたロボットにも命を吹き込むことができる。

こんなことをいろいろ考えたりしていると、読みたい絵本があることに気がつく。『うえきばちです』。川端誠さんの絵本は一冊一冊が違った世界に案内してくれる。この絵本の帯には“極めつけのナンセンス絵本”と書かれており、扉を開くと、何も考えず、ただただフッと笑うことができる。今日は、どんな絵本にしようか…と考える日々、そして幸せなひと時。私をそんな世界に連れていってくれる子どもたち、ありがとう。



図書館行事報告

☆寿文庫へご協力いただき、 ありがとうございました！

寿文庫運営委員会では、「寿文庫」充実のため、図書購入に協力していただく運動を続けています。今年もこの運動により、厄年・祝い年や一般の方をあわせて86名の皆様から、537,404円の寄付をいただきました。

ご協力ありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。

寿文庫運営委員会 委員長 宮崎 真一、委員一同

今回のご寄付は「第56回寿文庫」として図書を購入させていただきます



2021 4 April						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2021 5 May						
月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6※	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※5月のおはなしだっこはお休みです

2021 6 June						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

おはなし会の予定

★おはなしだっこ【赤ちゃん対象】

第1木曜 1歳児以上 10:00～
0歳児 10:45～

★おはなしの時間【幼児対象】

第1・3土曜日 11:00～

★おはなしの広場【幼児～小学生】

第2・4土曜日 11:00～

尾鷲市立図書館（〒519-3616 三重県尾鷲市中村町 10-41）

開館時間 火～金 9:30～19:00／土日祝 9:30～17:00

休館日 月曜日・月末

※月曜日が祝日の場合は翌日休館

年末年始・蔵書点検期間

月末が土日の場合は直前の金曜日休館

電話番号 0597-23-8282 FAX 0597-23-8283

図書館 HP <https://ilisod003.apsel.jp/owase-library/>



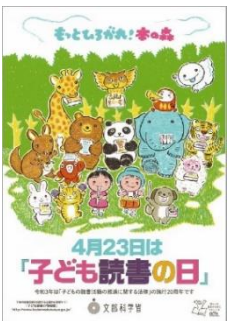
図書館だより 2021年春号

つみくさ



4月23日は 子ども読書の日

毎年4月23日は「子ども読書の日」です。子どもの読書活動について関心と理解を深め、子どもたちの積極的な読書意欲を高めるための日として、2001年に定められました。子どもの本と言っても、昔からの名作や映像化された本など、大人だって楽しめるものも沢山あります。この機会にぜひ読んでみてはいかがでしょうか？



『モモ』



ミハエル エンデ//作
大島 かおり//訳 岩波書店
時間どろぼうに盗まれた時間を人々にとにかえてくれた女の子モモの物語。毎日時間に追われる現代の人々にもぜひ読んでほしいエンデの名作です。

『100万回生きたねこ』



佐野 洋子//作 講談社
100万回生まれかわっては死んでゆくねこ。死ぬのなんか平気だったねこは、ある時、一匹のしろねこに出会い…。

『星の王子さま』 サン=テグジュペリ//作
内藤 濯//訳 岩波書店



サハラ砂漠に不時着した飛行士と「ほんとうのこと」しか知りたがらない純粋な星の王子さまとのふれあいを描いた、永遠の名作。王子さまの言葉にはっとさせられる大人も多いはずです。

『赤毛のアン』 L・M・モンゴメリー//著
掛川 恭子//訳 講談社



ふとした手違いで老兄妹に引き取られることになった孤児のアン。想像力豊かで明るい性格は、いつしか周囲を温かく変えていく…。不朽の名作です。

『精霊の守り人』 上橋 菜穂子//作
二木 真希子//絵 偕成社



女用心棒バルサは精霊の卵を宿したチャグム王子と出会い、国の命運を背負う彼を守るため戦い続ける…。シリーズの第1作。ドラマ化もされました。

『このあとどうしちゃう』 ヨシタケ シンスケ//作 プロンズ新社



死んだおじいちゃんの部屋を掃除していたら、「このあとどうしちゃう」と書かれたノートが出てきて…。ヨシタケシンスケの発想絵本。

＜目次＞

- ・図書館利用者さんの「これ読んでみいー！」
- ・図書館エッセイ…北川志保さん

- ・「ねえねえ知ってる？」…ポランの会
- ・3ヶ月ランキング
- ・図書館行事報告／カレンダー



『インタビューズ』
(堂場 瞬一//著、河出書房新社)
平成元年。新聞記者の俺は大学時代の友人のアドバ
イスで、これから始まる平成の全ての大晦日に、そ
の年一番印象的だった事件や出来事を聞くというイン
タビューを行うことを決め…。100人の架空の
インタビューで繋がる物語。

堂場瞬一の作品は35冊完読しましたが、新聞記者や警察関係者が主
人公として事件に取り組んだものや、組織の内実をくわしく書かれた
ものが多かった。ところが、本書は平成元年の大晦日から、毎年同じ
日に渋谷のスクランブル交差点で、今年が一番だった出来事をインタ
ビューするという異色の小説。平成時代の忘れかけていた出来事を思
い出し、面白かった。

今年5月に74歳となる男性



『嫁をやめる日』
(垣谷 美雨//著、中央公論新社)
ある晩、夫が市内のホテルで急死。「出張に行く」
という言葉は嘘だった! 夫の隠された顔を調べ
はじめる夏葉子だったが、一方、義父母や親戚等
からの同情はやがて“監視”へと変わり…。義父母、
婚家からの「卒業」を描く。

「姻族関係終了届」というものをご存知ですか?
文字通り嫁ぎ先との関係を断つ書類なのですが、なんと!
提出するだけでよいのです! 知識のひとつに加えて下さい。

60代主婦



『妖怪アパートの幽雅な日常』全10巻
(香月 日輪//著、講談社)
幼い頃に両親を事故で亡くした為、早く独り立ちす
るのが夢だったタ士。高校入学と同時に憧れの下宿
生活を始めたが、なんとそこにはちょっと変わった、
でも人情味あふれる「住人たち」がいた…。

タ士が入居した寿荘は、なんと妖怪や幽霊が住む妖怪アパ
ート! 戸惑いながらも、アパートで多くの人と出会い、居場所
を見つけ成長していく。おもしろくて読み出したら止まらな
い。寿荘の住人になりたくりますよ。

Rさん(12歳)

読書ボランティアサークル「ポランの会」は、本好きの方たちが
子どもの本(児童書)についていろいろお話ししたり、幼稚園・小
学校などを訪問し読み聞かせを行ったりしているサークルです。
平成2年に始まったこのサークルでは、毎月担当者が決めた課題
の本を読み、気づいた点や面白かった表現等を会員皆で語り合
います。現在の会員数は14人。皆さんとても活動熱心で、図書館
のイベントにもたくさん協力してくださっています。



この日の課題は
中川李枝子さんの
『いやいやえん』
『ぐりとぐら』
でした

会員の皆さんおすすめ本をご紹介します!



『秘密の花園 上・下』
バーネット//作、山内 玲子//訳
岩波書店
遠いインドでいじめに両親を失
ったメアリは、イギリスの田舎
のおじさんの家にひきとられま
した。そのお屋敷には、入口の
鍵がかかったまま、10年間誰も
入ったことがないという「秘密
の庭」がありました…。



『ともだち』
谷川 俊太郎//文、和田 誠//絵
玉川大学出版部
ともだちって かがうつっても
へいきだって いってくれるひ
と。だれだって ひとりぼっちで
は いきてゆけない。ともだちっ
てすばらしいー。
谷川俊太郎の詩と和田誠のイラ
ストによる、心温まる絵本。



『汽笛』
長崎 源之助//作、石倉 欣二//絵
ポプラ社
アジア太平洋戦争が終わりに、日本
に帰ってきた兵隊さんは長崎
の病院に入院した。そこで出会
ったのは、火傷がひどくても、
腕がなくても、たくましく生き
る子どもたち。原爆孤児と元
兵隊の交流を描いた、平和への
祈りの物語です。



『ふたりはいつしよ』
アーノルド ローベル//作、
三木 卓//訳 文化出版局
がまくんとかえるくんは、とつ
ても仲良しのかえる。あるあさ、
がまくんは今日のよいひょうを
つくりはじめて…。ふたりの間で
繰り広げられるユーモアたっ
ぷりのお話5編を収録。大人から子
どもまで、多くの人に愛されて
いるシリーズです。



『さんせいー!』
宮西 達也//作絵 フレーベル館
お昼ごはんの相談をしていた5
匹の仲良しおおかみ。みんな食
べたいものがばらばらだったの
で、ぶたを食べることにしまし
た。1匹ずつぶたを捕まえられ
たのですが、ビルがぶたを逃が
してしまっ…。



『ざぼんじいさんのかきのき』
ずとう あささ//文、織茂 恭子//絵
岩崎書店
ざぼんじいさんは、あまい柿をい
つもひとりじめしています。ま
あばあさんにわけてくれるのは、葉
っぱや枝ばかり。でも、まあばあ
さんは、大よろこびです。そのわ
けは…。



『えっ! わたしだけの学校?』
劉 旭恭//文絵、松本 猛//訳
新日本出版社
学校に行ったら、生徒は女の子ひ
とだけ。みんな別の学校に行っ
てしまった。先生たちは「このま
までは学校がつぶれてしまう」と
心配し、女の子にあるだけの知識
を教えます。でも熱くなるあま
り、先生たちはけんかを始めて
…。



『あとかくしの雪』
谷 真介//文、赤坂 三好//絵
佼成出版社
長旅で疲れ、空腹のお坊さんのた
めに、心優しいおばあさんはやき
大根をごちそうします。
11月23日の大師講の夜、必ず
雪が降るといわれる由来話。

近日配架予定です



『だいくとおにろく』
松居 直//再話、赤羽 末吉//画
福音館書店
はげしい川に橋をかけるよう頼ま
れた大工。そこへ鬼が現れ、目玉と
ひきかえに橋をかけてやると言い
出します。橋が完成し、目玉をよこ
せとせまる鬼。名前を当てれば許し
てくれると言ってきて…。日本の昔
話絵本。



『ポビーとそらいろのヨット』
マーガレット・バーディック//作絵、
わたなべ しげお//訳 童話館出版
アナグマさんのお店にある素適な
ヨット。「いいものとかかんしま
す」って、何とだったら換えてくれ
るんだろう。カワウソのポビーは考
えますが…。

近日配架予定です



『ぼくのこえがきこえますか』
田島 征三//作 童心社
戦場で砲弾によって、ぼくの身体は
飛び散りました。でも、ぼくの心は
弟の怒りを見、母さんの悲しみを見
ます…。憎悪と復讐のむなしさを描
く。日本・中国・韓国の絵本作家が
手をつなぎ、子どもたちにおくる平
和絵本シリーズです。